

浄相院
だより

寿光

第58号

平成24年9月15日
発行：浄相院
畑中芳隆
〒332-0035
川口市西青木1-10-34
TEL 048 (251) 5984
FAX 048 (251) 5792



願われてここに

住職 清譽 芳隆

この夏八月にあるお檀家様のお棚経にお伺いしたところ「住職さん、おせがきのお話のなかでお経のなかに五つの何んとかがありましたよね。あれは何でしたっけ？」と聞かれました。

今年は何年ぶりに練馬の林宗院の稲岡春瑛上人のお話で、そこで取り上げられたお経とは法然上人のご法語『一紙小消息』のなかの次の一説です。

うけがたき人身を受けて、あいがたき本願にあいて、おこしがたき道心をおこして、はなれがたき輪廻の里をはなれて、生まれがたき浄土に往生せん事 悦の中の悦なり。

これは法然上人が私たちお念仏申す者にお示しくださった五つの難業であります。稲岡上人はさらにこんな分かりやすい実話を続けてくださいました。

心臓に欠陥があつて育たないことがわかつているけれども授かった命だからどうしても産み

たいと願う妊婦の娘さんがいる母から、もし一週間で孫が亡くなつてもお葬式をしてもらえるかという相談を受けた。

残念ながらこの子は生まれて二週間で亡くなりましたが、よく考えてみればこの子は先の五つの難業を乗り越えていることがわかる。

①母や家族に限られた命と分かりながらも願われて生まれてきた↓「うけがたき人身をうけて」

②今ここで家族と共に阿弥陀様のお救いの教えに出会つている↓「あいがたき本願にあいて」

③そしてこの教えを信じようとして↓「おこしがたき道心をおこして」

④そうすること地獄に落ちることなく↓「はなれがたき輪廻の里をはなれて」

⑤必ず苦しみなく浄土に生まれる↓「生まれがたき浄土に往生せんこと悦の中の悦なり」

それに比べて私たちはどうであろうか。願われてこの世に生を受けたということすら忘れてしまつてい

ることはあたりまえのことではなく幾重もの奇跡が起つたからではなかつたか。難しいけれど、どうかそのことに気がついて導かれたご縁を大事にお念仏して欲しい。こんなご法話でした。

毎年のおせがき法話を楽しみにしてください。お寺にいられることは私たちが寺のもののお話を聞いたとよろこんでくださることが何よりと考えております。

本年より師走の十二月に『仏名会』(この一年間を振り返る日)を行い、そこで法話を聞いていただきたいと思つています。

今年十二月十五日(土)に奈良の薬師寺より大谷徹英上人に来ていただく予定です。高僧、高田好胤師のあとを継ぐ全国で活躍されているお説教師さんです。

同日みなさま方からご寄進いただいた大念珠で数珠練りもいたします。

また、あわせて十月十三日「お念仏のつどい」にもぜひご参加をお待ちしております。いずれもみなさま方が主役の集いです。巻末のご案内をどうぞご参照ください。

まもなくお彼岸です。阿弥陀さまに「願われて」ご先祖さまや先亡の諸精霊が浄土にいらしていつも私たちが想ってくださいています。どうぞお参りくださり日頃の思いなどお話しください。

